

進捗報告

高田 知樹

富山県立大学 電子・情報工学科

2024 年 1 月 19 日

これからどうするか

富山大学の先生と協力し、バーチャル患者を用いた医療分野の教育に対する研究を行うことになりそう。

バーチャル患者とは

こちらの質問に対して、対応した答えを返してくれる AI を用いた仮想の患者。

- 1 バーチャル患者に話しかける
- 2 応答から病気を特定し評価する
- 3 フィードバックを行う
- 4 システムの評価をしてもらう

それぞれの項目に対して詳しく説明していく
まだ先生との話し合いの途中なので今考えていることを話す

1, バーチャル患者に話しかける

4/8

患者の見た目について

- live2D のようなものを用いて画面に映し出す
- 3D モデルを作り VR を用いて表示する

富山大学の先生曰く、質問に対しての表情が大切らしい

応答の方法について

- 患者にあらかじめいくつかの応答パターンを設定し音声認識を行い再現する
- chat ボットを用いて再現する
- chatGPT を用いて再現する

富山大学の先生曰く、hat ボットを用いて研究している知り合いがいるらしい

2, 応答から病気を特定し評価する

5/8

評価方法について

- 少ない質問で特定できればいいのか
- 絶対に聞かなければいけないことを聞けているのか
- 相手が嫌がる聞き方をしていないか

3, フィードバックを行う

6/8

どのようなフィードバックが適切か

- どのような質問が適切か教える
- 適切な聞き方を教える

富山大学の先生は、フィードバックまでは考えていなかった
学力向上というよりは、本物の患者と話しているような、実際の医
療現場に近く感じれることが大事みたい

4, システムの評価をしてもらう

7/8

評価手法について

システムを使用して見た結果を，アンケートを用いて回答してもらい，なんとか尺度を使って分析する．

富山大学の先生曰く，実際に模擬患者などを用いた時と大差ない結果が出ればいいみたい

結果

富山大学の先生と話し合いどのように研究を進めていくのか考えた.

今後

もう少し詳しく話し合っていく予定.
また論文を調べ, どのレベルで実現可能なのか理解する